猪高の森自然観察だより　6 月号

開催日時:2022年 6 月 26 日(日)
テーマ：水辺の生き物とミニガサガサ体験

残念ながら、予定していた観察会は、雷注意報が発令され、集合時間直前には雨が降り始め、雷が鳴り始めたため、中止と致しました。

今年の梅雨入りは 6 月 14 日、梅雨明けは 6 月 27 日と梅雨の期間としては異例の 13 日間という短さ、その後、最高気温が 35℃以上の猛暑が名古屋では続いています。6 月としては記録更新の気象状況です。

６月２４日にニイニイゼミの声が聞こえました。

●カルガモ親子は今年はふた家族！

左は棚田方面、右は塚ノ杁池です。日によっての移動はありますが、昨年はひと家族でしたので、今年は増えたことになります。カルガモの場合、子育てはメスのみにより行われるとの事です。

●小さな虫たちもよ～く見れば・・

小さい生き物たちと虫眼鏡などを通して接すると、その美しさにビックリする事があります。

この時期は、虫たちが登場してくる時期でもあります。できる事からはじめてみましょう。

左は、**カノコガ**。翅の模様が美しい。右の**イトトンボの仲間**は尾の先の青い色彩がポイントです。

左は「クロホソスジハマダラミバエ（？）」体長は１０ミリ位。

眼（複眼）の色、翅の模様、中々美しいと思いませんか？

花と一緒に虫たちも観察できると楽しさ倍増ですね

【さてここで問題です】
ふと足元をみると、左の画像のようなものが結構、沢山落ちています。
写真を撮った方も、最初は？？？。
キノコの仲間ではありません。
何だと思います？
答えは、最後の頁に・・。

●クサギカメムシはパクチーの香り？

カメムシとは、「カメムシ亜目」と呼ばれる分類群の総称で、日本では 1,300 種以上も知られています。この中には、タガメやミズカマキリ、アメンボなど水域に棲むものも含まれますが、屋内に侵入したり、洗濯物について臭いにおいを出す不快害虫とされているものは、そのうちのごく一部です。多くの種は、体長５ｍｍ以下で、においを出さないか、出したとしても人間の嗅覚ではそれを感じることができないような小さな昆虫です。

左は、パクチー（？）のかおりがすると言われる**クサギカメムシ**。

カメムシは、肛門からではなく、脚の付け根（幼虫の間は背中）にある臭腺というところからにおいを出します。

このにおいは「臭腺孔」というあなから液体の状態で出され、周辺の微細な凹凸のある構造をした表皮に付着し、速やかに蒸発・放散することにより周辺に拡散されます。

左は、**マルカメムシ**。洗濯物につくと、大変嫌がられます。スパイシーなにおいといわれます。

カメムシのにおいは外敵から身を守るための役割のほか、同じ種同士が情報を伝達し合うためのフェロモン（集合フェロモンや警報フェロモン）としての役割も果たします。

（この項の文章は、自然保護　2017 年Ｎｏ．557「今日からはじめる自然観察」より抜粋・加筆等しました。）

●雄株と雌株、雄花と雌花

花には、雄しべと雌しべがひとつの花に一緒に咲いているもの（両性花）、同じ株に雄花と雌花が別々に着くもの（アケビ、ゴーヤなど）、雄株に雄花・雌株に雌花が着くもの（アオキなど）、など他にも多くのタイプがあります。よく見ないとわかりにくかったり、雄花と雌花がよく似ていたりしてわかりづらいものがありますが、これは、はっきりしています。

アカメガシワの左は雌株の雌花、右は雄株の雄花です。

●6 月の樹は・・

左は**シャシャンボ**の花（明徳公園にて撮影）

「日本のブルーベリー」と言われます。

ブルーベリーと同じツツジの仲間の樹で熟した実は、大変美味しい。庭木にするドウダンツツジや同じく山に生えるネジキなども同じ仲間です。花の感じがよく似ていますね。

６月は春に咲いた花に、樹々が実をつけ始める時期でもあります

左上から右に順番に

（１段目）**キリ・ミツバアケビ・ヤマモモ**（２段目）**ノダフジ・ナワシロイチゴ・ヒメコウゾ**（３段目）**アラカシ・トチ・スギ**

種類によって、今、熟期を迎えてもう食べられるもの、秋にドングリとして落ちるもの、莢が開いて種が飛び出るもの、風に種が飛ばされるもの、など様々です。

一番華やかなのは、花の咲いた時期ですが、１年を通して、その樹の営みを観察することをお勧めします。

きっと新しい発見があるでしょう。

●花と見つけてみたい変わり者（？）

左上から右に順番に

（１段目）**ムラサキシキブ、サンゴジュ、ヤブミョウガ**（２段目）**オオバコ、エゴノネコアシ、クヌギマルタマフシ**、（３段目）**ハゴロモの幼虫、ハゴロモの幼虫、イチモンジカメノコハムシ**

１段目の花はどれも秋に美しい実が生ります。２段目のオオバコの花、足元に気を配ると意外な美しい事に出会えます。ルーペのご持参がおすすめです。エゴノネコアシはエゴノキに、クヌギマルタマフシは、クヌギやアベマキに付く虫こぶ（ゴール）です。３

段目は、ちょっと見ると虫には見えません。「何だろう？」と思って、見ることが大事です。楽しい発見がきっとあります。

●すり鉢池の今は・・

昨年１１月１４日に池干しを行いました。２１日にペットボトルでトラップを仕掛けましたら（小さいものしか、取れませんが）アメリカザリガニ幼体（左）とモツゴ幼魚（右）が獲れました。引き続き状況を観察します。

●緑地を散策する時に注意してほしい生きものたち●

最近、緑地内でマムシ（毒蛇）がよく確認されています。道の真ん中に居ることもあり、歩く場所に十分注意してください。マムシは画像のように「銭形模様」が一般的ですが、個体により全く模様のないものもいます。不用意に近づくことのないようにしてください。

左２枚はムカデ（トビヅムカデ）です。ムカデは地面にいるとは限りません。葉の上や樹に上ることもあります。葉をひっくり返したり、幹を触るときには十分注意してください。

次回観察会は、７月２４日（日）９：３０～　森の集会所集合です。

きっと新しい発見があります。

●付録・先月号で紹介した蛾の仲間の名前

１段目
左：シロスジアオヨトウ
中：ウスキツバメエダシャク
右：不明

２段目
左：ギンツバメ
中：フタツメオオシロエダシャク
右：オオウンモンクチバ

３段目
左：コベニスジヒメシャク
中：コヨコツメアオシャク
右：ニワトコドクガ

４段目：ウスマダラマドガ

ガの仲間は日本に 6,000 種以上いるとされています。
チョウよりもはるかに多い種数です。
目に留まった種類を細かくみてみませんか？
新しい発見があると思います。

※２ページ目の問題の答え
野鳥の糞です。赤いのはヒメコウゾの種でした。

左：巣作りの材料調達中のツバメ
中：トノサマバッタ
右：ニホントカゲ（幼体）